ユニオン雑誌　　万国の労働者　団結せよ！

結（ゆい）

アメリカの侵略戦争や対テロ戦争に自衛隊員を送り、武力行使することを安倍首相は「積極的平和主義」と言います。積極的平和主義の本意は対話を通じて貧困や抑圧など構造的暴力のない社会を築くことです。格差社会を改め、社会保障の充実を図り、安心に暮らせる社会をつくることが政府の責任のはずでが、逆の方向へ進んでいます。昨年１１月２２日、南スーダンへ陸自の先遣隊がセントレアから出発する直前１９日に、イラク戦争でクエートへ派兵され負傷した元空自隊員池田頼将さん（国賠訴訟中）が不当逮捕、勾留され続けています。全体のみならず個別の事件にも目を向けて、イラク訴訟名古屋高裁判決の「平和的生存権」を活かそう。

近森泰彦（ユニオンと連帯する市民の会代表）

第4号　2015年12月31日　編集「結」編集委員会　発行：ユニオンと連帯する市民の会

ユニオンと連帯する市民の会の一年

市民の会が昨年２月に総会を開催した後、新しい体制で活動してきましたが、この一年の活動により、今まで通りユニオンとの関係を強化していくことは変わりませんが、当面中心的に取り組む三つの課題が見えてきたと思います。

一つは、ユニオン学校の継続と発展です。12 月 12 日に「ユニオン学校運営員会 第４回総会」を開催し「労働運動を担う労働者の学び舎として、また労働現場での様々な問題に直面する若者の学びと交流の場を作り、労働組合運動や社会運動の促進につなげていく」目的を確認しました。今後、当面の課題のみを追求する学習の場ではなく、多様な内容を含んだ学校を追及していきます。

二つ目は、このユニオン雑誌「結」の充実です。多くの方の協力により、他に類を見ない雑誌になってきていると自負しています。是非、皆さんのご意見をお願いします。また、ここに載った記事に対する反論がありましたら、書いて下さい。討論の場としても充実していきたいと思っています。

つぎに三つ目は、「ゆるやか懇話会」です。今年から始めた活動ですが、多くの方からの新鮮な意見交流が図られたと思います。

８月の懇談会では、参加者の自己紹介を中心として、それぞれの活動内容を話しい、参加者の多様性が感じられました。10 月の懇談会では、各自の活動してきた組合の状況が話し合われました。

教職員の組合、運輸関係、電機、新聞関係の組合による活動・考え方の違いが出されました。日頃、交流する機会のない組合の状況が知ることができたと思います。12 月では、それぞれが抱えている問題などがだされました。小林さんからは、市民運動の活動家が自由に集まれる「たまり場」がない等、具体的な意見も出されています。やはり、メールだけでは不十分であり、たまり場で人との交流が図れないと、十分な活動ができない実態があります。つぎの総会では、今年の成果を踏まえて充実していきたいと考えています。

植木日出男（市民の会事務局長）

第 26 回ユニオン学校　秘密保護法・新安保戦争法反対運動を闘って　講師：中谷弁護士

□ 統一戦線の歴史１－新村猛と人民戦線 ……木村直樹……　２～３
■ 建設的な批判と学問・運動の発展－大木一訓氏の思考について……仲間健……　４～５
□ 中国・労働ＮＧＯへの弾圧とトヨタ紡織の山猫スト……松本朗……　６～７
■ フィリピン人船員と戦争……柿山朗……　８～９
□ 出版社での労組結成から釜ヶ崎へ行くまで……大西豊……　９
■ 堺利彦を読む１……近森泰彦……１０
□ 子供たちへ語り継ぐべき真実の戦争（ある１兵卒の記録）……堰代晃……１１～１５
■ 『戦争はさせない・デモと言論の力』（本の紹介）……近森泰彦……１６

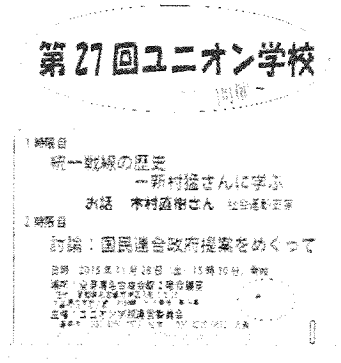
統一戦線の歴史1 ―新村猛と人民戦線

秘密法と戦争法に反対する運動のなかで、「野党は共闘」と叫ばれるなか、共産党から戦争法廃止の国民連合政府が提案された。そこで、これまでの「統一戦線」運動を振り返ってみたい。「労働戦線の統一」も従来の課題である上、政党の共闘、「統一戦線」は弁証法的に「対立物の統一」段階であり、新しい段階へ止揚する道は未開拓である。

コミンテルンの第１回大会からトロツキーの「統一戦線について」（フランス共産党関連）の議論はあったが、第３回大会（１９２１年）で特に「プロレタリアートの統一戦線」、「大衆のなかへ！」が提起され、第４回大会では労農同盟だけでない統一戦線がレーニン、トロツキーの路線で模索された。その後はスターリン時代、そして第７回大会（１９３５年８月２日）、ヨーロッパのファシズム反対運動の流れを受けたコミンテルンのディミトロフ書記長によって、「勤労大衆をファシズムとの闘争に動員するうえでとくに重要な任務は、プロレタリア統一戦線をもとにして広範な反ファシズム人民戦線をつくりだすことである」（『反ファシズム統一戦線』坂井信義、村田陽一訳）と人民戦線戦術が提起され、スターリンも路線を一致させた。ディミトロフはブルガリア出身の元印刷工であった。ナチが政権を奪取した１９３３年（昭和８年）１月３０日、ベルリンに亡命中に国会放火事件で逮捕される。この年、日本は国際連盟を脱退。

京大瀧川事件以降、学問の自由を守る若き知識人たちは、「美・批評」という雑誌を改題して「世界文化」を発行する抵抗運動を始めた。その一人新村猛は１９３１年（昭和６年）同志社大予科講師（フランス語）となり、ロマン・ロラン研究を通して、日刊紙「エクセルシオール」をはじめ、その後「ル・ポピュレール」、「ス・ソワール」、「ウーブル」３紙を購読することで、スペイン、フランスなどの人民戦線情報を得た。１９３２年８月２７日―２９日、アムステルダム反戦反ファシズム大会を経て、１９３３年（昭和８年）８月２０日、ランジュバン、ロラン、バルビュスらによって、反戦反ファシズム闘争世界委員会（アムステルダム―プレイエル委員会）が出来た。１９３４年２・６事件というフランス右翼（国粋戦線）の暴動に対して、一気に広がった人民戦線運動と人民連合政府の動向を伝えた。

「世界文化」創刊号（１９３５年２月）に「世界文化情報」欄へ新村は関口の名で、「フランス文壇と全ソ作家大会」を書き、文学のみならず、「国際反ファシズム・スポーツ大会」なども紹介して、「学者たちの反ファシズム活動、美術界の動向、等々と共に順次「情報」が報道の任を怠らないであろう」と締めくくった。



１９３３年（昭和８年）は、共産党の創立者の一人堺利彦（社会大衆党顧問）が１月２３日死去、プロレタリア作家小林多喜二が２月２０日虐殺された年である。また、全労統一全国会議（委員長加藤勘十）主導で６月、極東平和友の会準備会（発起人佐々木孝丸、葉山嘉樹、秋田雨雀、長谷川如是閑、江口渙、加藤勘十、蔵原惟郭、水野広徳ほか）、８月２５日、極東平和友の会発会式（日比谷東洋軒）、９月２日「上海反戦会議支持無産団体協議会」が持たれた。前年１２月の極東反戦会議方針決定には小林多喜二も反帝同盟として出席した。

１９３６年の２・２６事件以降のファシズム状況のなか無産政党躍進（社会大衆党は３７議席）状況で、能勢克男、林要、中井正一、斉藤雷太郎らが隔週新聞「土曜日」を「世界文化」の大衆版として創刊した。創刊号（１９３６年７月４日）に新村は無署名で「フランスの新保健局長官　イレーヌ・ジョリオ・キユリー夫人　実験室から人民戦線へ」を書いた。しかし、「フランス民衆戦線と急進党」（２１号、１９３６年１１月２０日）などの人民戦線紹介がコミンテルンの活動と同一視され、１９３７年１１月８日、新村は治安維持法違反で、斉藤雷太郎、真下信一、中井正一などと逮捕され、１９３９年８

月１７日まで拘置された。「世界文化」の発行は「コミンテルン日本支部日本共産党の拡大強化のためにやりました」という意味の準備された調書を仕方なく認めた。その調書を引きたくれば別だが、妻子を父に預けている新村としてはこれ以上頑張ることはできなかった。そのあとは『辞苑』の編集と京大図書館嘱託で終戦まで凌いだ。兵隊検査は第二丙。人民戦線は「世界文化」「土曜日」に続き「労働雑誌」「改造」「中央公論」「セルパン」「サラリーマン」「社会評論」「学生評論」等の雑誌で紹介、議論され流行のテーマになった。

コミンテルン側は７回大会を経て無署名（野坂参三、山本懸蔵執筆）の「日本の共産主義者への手紙」（１９３６年２月）では「わが国民をファシズムと戦争の戦慄から救う道は、労働階級の統一行動と反ファシスト人民戦線を基礎とする偉大な国民運動のみである。されば日本共産党の当面する任務は軍部、反動、戦争に反対して全勤労民を統一することである。今やわが国は対立する二つの陣営にわかれた。すなわち暗黒な反動と軍事的冒険の陣営と、これに対して勤労階級の統一戦線、すなわち、民主主義、平和、勤労の陣営である」（石堂清倫、山辺健太郎編『コミンテルン　日本にかんするテーゼ集』）と伝えられた。野坂は岡野進のペンネームで「あかるい日本のため人民戦線樹立へ」（「国際通信」１９３６年３月号）を発表し、「ファシズムと戦争に反対し、大衆的国民運動の展開に賛成し、人民戦線参加の用意ある民政党の地方組織に対しては、これを支持し、これとの協定に入ることを躊躇してはならぬ」とした。

戦後、新村は「民主主義の学校」京都人文学園長として、「行動の人として思考し、思考の人として行動する」近代人の養成を目指し、京都自由人協会のメンバーとして、京都民主戦線の高山義三市長を誕生させた。京都の民科（民主主義科学者協会）京都支部も湯川秀樹、新村猛の講演会から動き出した。そのあと名古屋大学文学部（仏文）へ移り、愛知平和委員会代表委員などを経て、１９７１年、社共統一候補として愛知県知事選を互角で戦った。原水禁運動統一に尽くし１９７７年に限り統一が実現した。金子満広共産党統一戦線部長が判断できなかった課題は、宮本顕治共産党委員長の判断で動いた。この背景には宮本と新村の間に敬意を抱く関係があった。宮本は「民主民族戦線の展開」（『自由と独立への前進』１９４９年７月）で新村の「民主戦線と知識人」（「世界評論」１９４８年５月号）に対して「そこには聴かなくてはならぬ多くのものがある」と評していた。新村は「この大会には、これまで禁・協両組織のどちらにも参加していなかった広汎な団体や潮流を新たに迎えることができましたので、私どもが目ざす国民的統一と運動の再生にとって幸先のよい様相を示していることを皆さんと一緒に喜びたいと存じます」（１９７７年８月５日原水爆禁止世界大会開催集会主催者あいさつ）と語った。「人民戦線は、１９３０年代に、戦争とファシスト独裁を防止することを共同の目標に掲げて結成された統一戦線の一形態」、「統一戦線が全国的規模で成立する見透しがつかない状況にあって、その準備を地方的規模で進めるためのものであっても、統一戦線という標語を濫用しないほうがよいと思う」（「『世界文化』のこと」、「展望」１９７４－１９７５年）また、「広義の統一戦線運動にほかならない平和運動」に献身した動機を「社共両党の合作を基軸とする統一戦線のもっとも広範で、規模が大きく、成功した、戦後唯一の大衆運動の形態であった核兵器禁止運動が分裂することは、安保体制を打破しようと望む勢力総体にはかりしれない損失をおよぼし、逆に、安保体制の維持を望む勢力の側に、きわめて有利に働くに違いないと、予測して憂慮にたえなかったからであった」（「平和運動と統一戦線の論理」、「世界」１９６６年１２月号）、さらに「統一戦線運動の哲学的基礎は、私は弁証法的唯物論でなければならないと信じる」（「平和運動と人民戦線の思想」、「展望」１９６６年９月号）と総括していた新村にとって原水禁統一は慶びの出来事になった。最晩年、湯川さんの病床を訪れた新村さんは、「新村君、平和運動に尽くしてくれてありがとう」と言われたと、涙ぐんで私に語られた。二人は中学の同級生だった。

木村直樹

建設的な批判と学問・運動の発展

－ 大木一訓氏の思考について

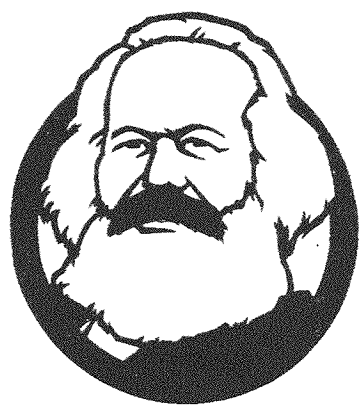
仲間　健（労働組合活動家）

「へえ、いるんだ、こういう人」私はこの労働総研「クオータリー」№93（2014年冬季号）に掲載された「書評」を読んで、正直驚きを隠しきれなかった。この書評は猿田正機氏の著書『日本的労使関係と福祉国家』への大木一訓氏のものである。猿田氏の大著は表題通り壮大なテーマであるが、その主張に日本はどうして福祉国家戦略が全面に出ないのかという事への共産党への辛口提言である。特に日本は社会民主主義勢力が事実上溶解している中でその部分もフォローしなければならない日本共産党の役割として、より中道左派的な役割を果たすべきだと主張している。書評はその本の内容を紹介してから論評するのが筋だが、大木氏はことさら、気に入らない主張だけをとりあげ、それを公党への乱暴な介入だときめつけ、マルクス主義的（スターリン主義？）教条で一貫して高い位置から説教している。

大木氏は研究者になる前は、全日自労の書記をしていた。すでに70代後半になり、「好々爺」といわれる年齢だが、文章の端々から余裕のない表現が散在する。自説への共感を持つ人が少ないのだろうか？彼の書物の多くは「新日本出版社」や「学習の友社」などから出されている。以前ほどではないが、全労連や傘下の産別組織の学習会での講師を務めていた。ここから推測すると、戸木田嘉久氏や牧野富夫氏とともに日本共産党系の労働問題研究者として重鎮的存在だったのだろう。

労働運動活動家に過ぎない私が、あれこれ氏の文章を論評をするほどの能力はないが、本批評を読んで、事実関係の表現で気になることがいくつかある。その点についての指摘だけにとどめたい。大木氏の現状認識の前提は、古くからある日本共産党の中でも鋼鉄の頭の如く揺るぎない1970年代ぐらいまでの日本社会への認識から一歩も抜け出ていない。氏は「前衛」や「奔流」固有の高い目線で、自説とは異なる主張を排撃している。しかし「社会ファシズム論」（社会民主主義主要打撃論）を自ら唱えても本人は気づかないかも知れない。

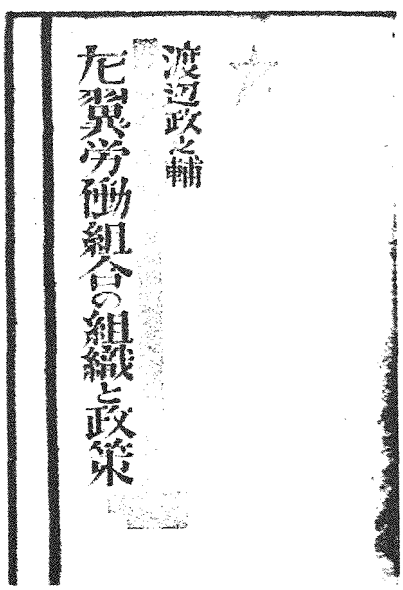
日本の革新（社共）は高度経済成長期に各分野で拠点を確保してきた。日本共産党も1960年代から1970年代にかけて大きく躍進した。当時の若者が中心になって各分野で拠点を作っていった時期である。学園、地域、職場などでの仲間作りが画期的に前進していた時代である。ところが今や、日本の左翼陣営は社会党が溶解し新左翼も自爆し、日本共産党が左翼の代表的な存在となって、共産党のリーダーシップと度量が問われる存在になってしまった。現代日本ではこれまで社会民主主義が担っていた陣地の多くも共産党がカバーしている。大木氏の社会民主主義への評価は、その出自と過去の出来事にだけこだわり、コミンテルン＝スターリン型の教条的偏見と独断の域を一歩も出ていない。第二インターなりドイツ社会民主党は第一次世界大戦で決定的に裏切り、日本の社会大衆党もそうであった。戦後民主主義の一翼を担った社会党＝総評ブロックも表面的な急進主義的ポーズにもかかわらず場面場面では裏取引や慣れあいを行ってきたのも事実である。しかしそれで社会民主主義勢力のすべてを「社民」（シャミン）への「裏切り史観」として断罪するのは無理がある。この発想がまだ現代日本の70歳代以上共産党界隈の中で結構幅をきかせていることを痛感する。日本型社会民主主義が生まれてきた土壌や特性についても正確に見ておく必要があるが、大木氏にはその観点が全くない。



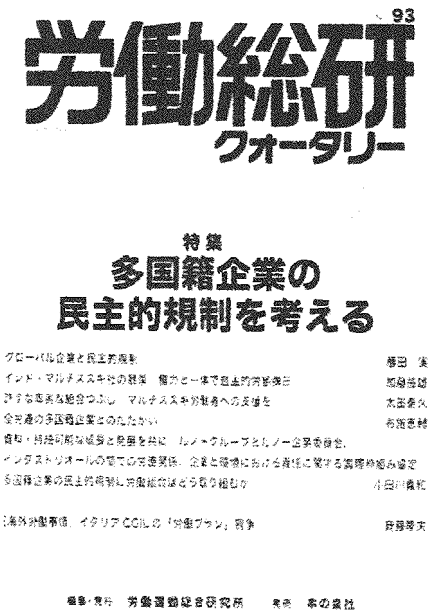
日本のマルクス主義はかつて日本資本主義分析で講座派と労農派に分かれて日本資本主義論争まで行われた。労農派に属する人たちがのちの左派社会党や社会主義協会の理論的ブレーンになったのは周知のことであるが、大木氏はこの事実を認めず、日本の社会民主主義と世界の社会民主主義と一緒くたにした批判をしている。まさかとは思うが本人は若い頃からの「狭い学校政治」の中で、思い込みで本当に知らないのかもしれない。さらにスウェーデン批判をするならスウェーデン社民党のこの間の活動についての事実による批判をするかといえばそうではない。自らの「観念」という教条での説教でしかない。

また本批評で「全労連が左派労働運動といわれるゆえんはない」なんて息巻いている。統一労組懇，時代から全労連結成にかけて私たちも「左派結集」を何回となく叫んだ経験がある。全労連が左派でないというのは右派なのかというスタンスでもない。全労連なり日本共産党は揺るぎない「奔流」であり「左派右派という俗っぽい表現」はしてほしくないのだろうか。これには多くの人が驚いたという。

1990年代以降の労働現場の厳しく困難な状況は、多くの心ある人々が手を取り合う必要があることを明らかにした。高い目線から評価するのは全労連としても迷惑であろう。実際に全労連や労働総研周辺の何人かにこの批評について聞いてみたら、正直「困っている」という声が聞こえてきた。晩節を汚した荒堀広氏みたいなことはないとは思うが、いつまでも固い頭でいることにはある種のすごさを感じる。



最近の日本共産党の躍進を担った若者青年たちには、マルクスすら読まずに、議員になった人もいる。労働組合幹部ですら資本論を読んだことがない人もいる。大木氏の主張が党内の新しい若い層に受け入れられるとは思えない。



近年の共産党の外側にいる左派リベラル系の人からは、日本共産党への評価は高まりつつあるが、彼らからすれば、まだ本当の意味での一致点で共闘をめざしているかは懐疑的である。今なお、大木氏のような主張が全労連系の研究機関の雑誌に登場すると、悪意の部分だけでなく善意の人からも失望も生み出しかねない。これでは学者としても政治家としても二流である。自らの周りの勉強不足でよく知らない人たちだけが迎合しており、気がついたら「裸の王様」になっていたことにもなりかねない。

古くからの共産党員、特に大企業の中で差別され虐げられた人の中で散見するが、不屈な闘いを担ってきたためか、年老いても歪んで偏屈な人がたまにいる。だが研究者の中でこれほど教条にこだわった固い頭の人は、牧野富夫氏以外は大木氏をおいて他には見られない。大木氏には、社会が変わった現実を直視する視野を養い、頭脳をときほぐすトレーニングをしていただきたいし、本当の意味で若い人への導きとしての役割を果たして欲しいものである。今回紹介した文書は日本スターリン主義の残骸を示した貴重で意義ある「書評」である。これからの運動で、克服しなければならない課題が読み取れる反面教師の文書である。

中国・労働NGOへの弾圧とトヨタ紡織の山猫スト

広東省で労働NGO活動家に弾圧

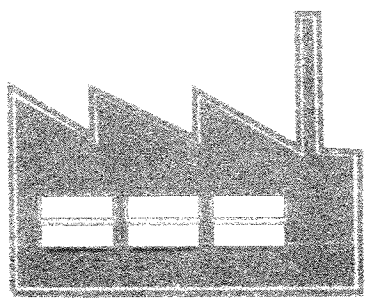
12 月に入って中国では労働ＮＧＯの活動家が相次いで逮捕される事態がおこっています。12 月 3 日には広東省で 16 名の活動家が警察に連行され、家宅捜索を受けたりしています。

理由は「社会秩序を妨げるために群集を集合させた」というものでした。12 月 11 日の時点で数人が釈放されましたが 8 人が拘留中で弁護士との接見も禁止されているという事です。

香港のアムネスティー・インターナショナルの活動家であるウィリアム・ニーは、「広東省の労働運動に対する『一斉攻撃』が展開されている」と語っています。逮捕された一人は女性であり、日立系の現地工場での争議で解雇され、その後の裁判で勝利したことをきっかけに労働ＮＧＯで活動していました。

高揚する中国労働者の闘い

この弾圧の背景にあるのは中国経済の失速と工場閉鎖が相次ぐ中で労働者の闘いが起こり始めている事に対して行われたものであるとみてまちがいないでしょう。香港の CLB「チャイナ・レーバー・ブレティン」の 12 月 3 日付けの報告では、中国での 11 月におきたストライキの件数は 301 件で過去最高。このうち 56 件が広東省に集中していました。ストライキを起こしたのは主に製造業で働く労働者であり、工場閉鎖や合併、移転の後について、未払い賃金要求を理由におこしたものです。また、経営者が失踪するケースも多々あり、労働者が地方政府の官庁へ補償を要求するデモ行進は、2 か月の間に 75 件もあり、警察が出動して 9 件で逮捕者が出るという事態になっています。



救援を呼び掛け

香港では、「全球化観察（グローバリゼーションモニター）」などの団体が中国政府の活動家拘留に抗議し、即時釈放を求める運動を展開しています。オンライン署名も始まり 12 月 9 日には西営磐の警察署前に百人余の活動家が集まり、中国政府に労働者の人権と結社の自由を尊重することを求めるアピールを行いました。また、ITUC（国際労働組合総連合）も 1 連の弾圧に抗議の書欄を送り、アムネスティインターナショナルも緊急行動を呼び掛けています。

（※）「グローバリゼーションモニター」は、中国の労働者たちが置かれている労働者を調査し、中国・恵州にある香港資本の電池工場で発生したカドミウム汚染の被害者とともに被害の正当な補償を要求するなどの活動を展開してきました。また二〇〇五年十二月に香港で行われたＷＴＯ閣僚会議に対する対抗アクションを組織した香港市民連合（ＨＫＰＡ）の一員として重要な役割を果たしました。

労働 NGO の役割

中国では国が作った労働組合以外の、独立した労働組合が認められず、官製労働組合のもとでは労働者のための労働運動を闘う事は極めて困難な状況にあります。これに対し、労働 NGO が、労働者が争議やストライキを闘うために支援、協力し大きな役割を果たしてきました。これまでも日本の企業、または日系企業による中国人労働者に対する劣悪な労働環境の現実を明らかに世界に改善を訴えるなどの取り組みを行ってきました。最近ではユニクロの下請け企業、ファーストリテイング社の劣悪な職場環境を暴露し、マスコミからも注目されています。

中国 ： 広東省の労働 NGO 解放を求める署名運動始まる

今回の弾圧に対し広東省に近い香港から、香港職工会連盟（ＨＫＣＴＵ）と全球化監察の連名で、釈放を求めるウェブ署名が広く呼びかけられ、賛同署名は 2015 年 12 月 19 日 までに、世界 159 団体、2195 個人から賛同が集まっています。12 月 21 日には、香港・スリランカ・ノルウェー・日本などでグローバルアクションデー（中国大使館、または総領事館の前で釈放を求めるプラカードを持って写真を撮りフェイスブックに掲載する）が行われ、支援の輪が広がっています。

同時期にトヨタ紡織で山猫スト

中国共産党による、労働ＮＧＯに対する弾圧が行われている中、12 月 7 日～8 日、天津にあるトヨタ紡織の天津英泰汽車飾件有限公司でストライキがありました。会社が労働時間の一方的変更にともなう時間外割増賃金の実質的カットを決めたことに対して、労働者が山猫ストを決行したのです。

（※山猫ストとは、労働組合員が労働組合の正式な決定なしに行うストライキの事です。これらの争議行為は，いずれも組合内部の統制違反問題を生ずるが，使用者との関係では，非公認ストの場合は，下部組織全体の意思に基づいて行われる争議行為であるから，争議行為自体の法的正当性が失われないのに対し，一部の組合員が行う山猫ストは，場合によっては法的にも正規の争議行為としての刑事上，民事上の免責を受けないことがあります。）

中国のトヨタ紡織工場では、中国で製造、販売されるトヨタ自動車に使われるシートや内装品を製造しており、中国国内に 14 の工場が存在しています。

一旦は鎮静化したが・・

中国経済の失速もあり、同工場では、生産減少にともない、従来の 8 時間の標準労働時間を繁忙期は 10 時間労働、閉散日は 6 時間労働にすると一方的に決めたことに対して闘われたストライキでした。この会社には労働組合は存在しますが官製労働組合であり役員は反対したりはしません。このような状況のもと、闘う事を放棄した官製組合を乗り越えて労働者自身が自らの意思でストライキに立ち上がりました。

2 日間にわたるストライキにより、自動車組立ラインでの製造にも影響が出たため、警察を導入して弾圧するとともに、一時金の支給（向こう 3 か月 800 元支給）をしたことによっていったんは鎮静化している模様です。

この一方的な労働時間変更による搾取が、トヨタ紡織関連の他の工場にも拡大するのではないかと、現地の労働者も懸念しています。

新生代の HP より（中国語）
http://www.ilabour.net/html/xsdytd/grxd/4137.html

日中労働者の連帯を

中国共産党が労働ＮＧＯを弾圧し、日本の企業は労働条件、労働環境を切り下げる。中国労働者は 2 重の攻撃にさらされている状態ですが日本の労働者にとって無関係ではありません。日中の労働者がお互いに労働力の安売りを競争させられている現実があり、中国労働者の置かれている現状を見過ごせば、必ず日本労働者の身にも起こることなのです。日中労働者の連帯は急務です。

松本　朗

フィリピン人船員と戦争

戦争の中の兵站業務

本年７月名東区の「ピースあいち」で「民間戦没船と船員の記録展」が催された。来場者に感想を伺う機会があった。戦争がいかに残酷なものか、という意見が最も多かった。また、感想の中には戦争突入の無謀さへの指摘が幾つかあった。その理由として開戦時には海上輸送の護衛組織すら持たず、戦争後期の1943年の11月にようやく海上護衛司令部を立ち上げたこと、つまり兵站の軽視を挙げていた。ＣＢＣテレビのインタビューで私は「死亡率が陸海軍人の２倍以上である４３％の船員が死んだ事実は、兵站業務を後方支援と位置付けても戦闘が始まれば前線そのものであることを示している」と訴えた。

有事と便宜置籍船

１０数年来、貨物取扱量日本一を誇る名古屋港だが、他の港同様にここでも日本船籍や日本人船員を見かけることがなくなって久しい。船尾に日の丸を掲げた船に代わって登場した実質的には日本商船隊の最大数を占めるのがパナマ籍船である。最近増えて注目されるのがマジュロを船籍港とする船である。マジュロはあろうことか福竜丸の被爆をもたらしたビキニ環礁を有するマーシャル諸島の首都の地名である。こうした便宜置籍船は税制、環境、社会保障の３つのコストからの脱法で成立する。便宜置籍船は米国が有事に自由に使える植民地である西アフリカ・リベリア国と世界一安いコストと結び付けて使おうとしたことに起源を持つ。単に安いという経済的な理由だけではなく戦争と密接に結び付くのが便宜置籍船であり見逃せない重要なポイントである。

戦争とフィリピン人船員

深夜に金城埠頭の突端でモトローラ社製の無線の受信機のスイッチをＯＮにするとよい。新日鉄住金名古屋工場、名港センタートヨタ自動車埠頭やタンカー桟橋から殆どがタガログ語やフィリピン訛りの英語での作業のやり取りが聞こえてくるに違いない。外航の日本商船隊は約３千隻で船員総数が約10万人。その８割である約８万人はフィリピン人船員で占め、日本人船員は僅か千人程度に過ぎない。この国は食糧やエネルギーの輸入、鉄鋼製品や自動車の輸出は海上輸送に頼るほかはないが、産業を底辺で支えているのはフィリピン人船員の労働といっても過言ではない。２度とフィリピン人を戦火の巻き添えにしてはならないのだが、戦時の膨大な量の物資輸送の担い手として思い浮かぶのは先ずフィリピン人船員である。

フィリピンと太平洋戦争

太平洋戦争によるフィリピン人の犠牲者は 111 万人、日本人は310万人といわれる。但し開戦時の人口がフィリピン約1600万人、日本が約7000万人であることを勘案すればフィリピンは戦争の最大の被害国のひとつであることは言うまでもない。特にマニラ市街戦での日本軍による行為は報告として後世へ残すことも憚られるような残忍なものであったという。だが、戦後日本の大衆メディアが扱うフィリピンの話題は、日本の男たちの売春ツアーであり訪日女性である「じゃぱゆきさん」たちへ向ける好奇の目であり、台風や津波に怯える貧困著しいフィリピン民衆の姿であった。中国や韓国と異なり「歴史問題」を訴えることもないこの国では戦争の記憶はいち早く風化し、忘れ去られたのであろうか。

目が離せないフィリピンの今後

本年９月 19 日の安保法の成立を以て日本は戦争をできる国となった。改正安保法はＰＫＯを派遣した南スーダンで、そして集団的自衛権はスプラトリー（南沙諸島）で試される可能性が取り沙汰されている。安倍はフィリピンを「反共親米の価値観を共有

する国」と臆面もなくみなすに違いない。人々の変わらぬ貧困と庶民の間で伝統的な反中感情は戦争へ向かって背を押しかねない危険を孕む。新年の1月末に天皇夫妻はフィリピンを訪問する。本来はマニラ戦から70年の節目の本年2月に首都マニラを訪れ、マニラ大聖堂前でフィリピン国民に真心から「謝罪」すべきであったが、4月のパラオ、ペリリュー島慰霊でお茶を濁した。日本の戦争に2度とフィリピン人を巻き込まない方法は、忘れることではなくむしろ彼らの「遺恨」を抱え込み歴史を正しく継承することであろう。今はフィリピンから目が離せない。

柿山　朗

出版社での労組結成から釜ヶ崎へ行くまで

笹島日雇労働組合　大西豊

戦争遺族で貧しかった私の家族は早く私を働かせようと故郷の長野の出版社を紹介した。

（私は体育の単位が足らず1年留年していたので）１９６７年に就職。その出版社は自治体法規と警察の法規に学習参考書の三本立てという法規出版社。疎開で長野は印刷・出版会社が多い。入社時から同期入社の社員親睦会を作ったり七のつく日に喫茶店で話をする「寄り合いセブン」を作ったりして、社員同士の交流に努めた。私の動きに触発されて七、八名が集まり、労働組合結成の動きがはじまる。労働組合ではない名ばかりの「従業員組合」があったが、それは会社側とツーツーだったので（一応委員長とか役職はあったが）「乗っ取り」はやめて新規労働組合結成を目指した。

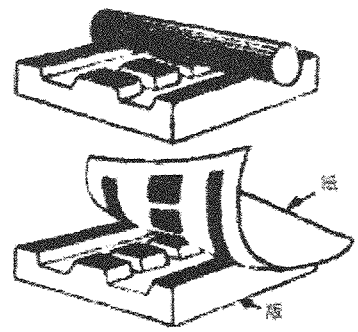
月に2，3度食堂の部屋で会議を持ち、目的、組織、要求項目などを討議。少しづつ組織拡大。約一年の「地下活動」を経て労働組合結成。この労組結成に至る過程には私にも分からないナゾがあった。委員長Hさんが自殺未遂。他の人が委員長となる。私は書記長。

出版社というと原稿さえ集まれば印刷屋に頼むだけですぐに出版できるので少人数でも経営できるし、一発当てればかなりの利益を得ることができる。しかし法規出版は官報を見て毎年新版を出さなければならないし、皮ひもの改正部分だけを差し替える「加除本」もあるので、手間もかかるし、全国に支店があり、社員数は結構多い。組合員は百人近くいた。社長は組合結成時「Hは芸者の子だったのを拾ってやった。恩をあだで返した。と朝礼の時にいうような人間。社員の9割を組織し、組合結成大会への参加呼びかけビラを配る編集部次長は茫然としてそのビラを読んだ。

組合は全印刷総連に加入し、総評（県評）の長野地区評議会に加入。担当専従オルグの指導を受けることになった。執行委員に東京支社への配転命令が出て、地方労働委員会への提訴など対抗策を取るが解雇を避けるため配転には応じた。会社のテコ入れで、休眠「従業員組合」が脱落者の受け皿となり、やにわに「第二労働組合」として「活動」を開始。今迄は慶弔見舞金などを支払う位の「親睦団体」のようなものであったのだが、私たちの組合からの脱退者を吸収して多数派となる。

ところが、その「従業員組合」も総評に加盟し、メーデーでは「従業員組合」がデコレーションで受賞（数の力？）。長野地区評議会は「歯止め」として脱退者の「除名処分」を提起し、組合はそれに賛同したが、雪崩のような脱退者を止めるには至らなかった。

組合のKさんと私が名古屋に組合対策で警察署の加除作業で出張に行かせられた。私が名古屋出張から帰ると委員長は組合を脱退していた。私は入社5年で「退社」（敗北）し、学生時代に下宿し、家庭教師をしていた伏見区の道路舗装会社に連絡をして就職。それは失意のうちのヤケッパチ就職でなく、肉体労働に憧れていたからである。道路舗装会社解散を経て憧れの“暴動の街”釜ヶ崎へ行き仕事をしながら釜共闘（暴力手配師追放釜ヶ崎共闘会議）のメンバーとして活動することになる（釜ヶ崎5年→笹島でヤクザの暴力的敵対をはねのけ、労組結成して2016年39年になる）。



堺利彦を読む1

先人の開いた道を今に!

戦争する国に反対する多数者の声を無視、くらしに係る重要な議案審議を拒否、秋の臨時国会をボイコットし安倍総理は独断専行を押し通した。

ヒトラーがお手本だ。１９３３年１月、自ら国会に火を放ちこれを共産党になすりつけ、弾圧（虐殺）・非合法化。反対政党を葬ったのち、「全権委任法」を通しこれによって独裁者の地位を固め敗戦（１９４４年）に至るまで国会を開くことはなかった。

「静かにやろうやということでワイマール憲法は何時の間にか変わっていった。誰も気がつかない間に変わった。あの手口を学んだらどうか」（２０１３年８月１３日、中日）と麻生副総理が講演で喋ったことが現実になりつつある。

１９２５年（大正１４年）の普通選挙（２５歳以上男子に適用、有権者は２０％）と引き換えに治安維持法が施行された。はじめは共産主義者が、やがて文化芸術活動、労働・農民運動はもとより自主的な集まりにまで弾圧が拡げられもの言えぬ社会にされた。１９３３年（昭和８年）日本が国連を脱退した年、共産党は息の根を止められた。同じ年著書が「共産主義的」であるとして京都大学滝川教授が大学を追われ、新村、真下先生らの少壮研究者グループ（ヨーロッパ人民戦線研究・紹介）も潰され歯止めのない絶望的な戦争に突入していった。療養を幸いに日清戦争頃から社会主義者となり闘い抜いた堺利彦のことを深く知りたくて著書を読み始めた。日本共産党創立者の一人堺利彦が生き抜いた明治後期から昭和初期（昭和８年死去）までの活動のうち今回は堺が社会主義の道を歩み始めるころのエピソードをたどってみたい。

堺は明治３２年７月、２７歳で朝報社の記者になった。黒岩涙香社主が日露戦争熱に煽られて主戦論に転向したことに反発して幸徳秋水とともに退社、直後１９０３年（明治３６年）秋水らと社会主義を掲げ平民社を立ち上げた。弾圧によって潰されるまで１年余、「週刊平民新聞」や書籍を発行し続け戦争反対の論陣を張った。

堺が成長する糧に朝報社時代の「理想団有志晩餐会」がある。１９０１年（明治３４年）、黒岩が自由参加の懇談を万朝報紙で読者に呼び掛けた。初めての時皆が気楽に話せるように①自己紹介②妻子の有無、その理由③今日なしたることなど身近な体験を気軽に語ってもらうように工夫した。参加者は２０から５０歳代の十数名。後に一人の語り手の話を聞くこともとり入れた。若い内村鑑三、安倍磯雄が宗教観や社会感を語っている。

「その談話の面白さ、おかしさ、興味しんしんとは実に之であろうと思われる」堺の感想である。自由な話し合いの場で堺の交友は広がり育っていった。現在の活動に生かしたい取り組みである。堺は為政者、軍、大富豪批判の筆を曲げなかった。また家父長制に縛り付けられた女性の解放をライフワークとした。「候」文を廃し話し言葉による紙面改革は特筆に値する。堺をささえた幸徳秋水は大逆事件の首謀者にデッチあげられ秘密裁判の下１９１１年１月（明治４４年）に処刑された。

堺は戦争熱が社会に蔓延するなか「およそ今の世に徴兵の法ほど残酷なものはあるまい。・・兵卒はたいていみな貧乏人の子供で、中等以上の社会の子弟はほとんど全くない。徴兵令の法文はきわめて公平であるけれどもその実際より言えば、日本の国家は貧乏人の子弟をかりあつめて兵卒にしているのである・・・・。金持ちが唯々諾々と兵役を逃れていることを痛烈に批判した。

日露間で風雲急となった時、堺は社会主義者として反戦の旗を掲げ、国家権力の弾圧にたじろぐことなく『平民新聞』を発行し苦難の人生を歩み始めた。堺は、週刊『平民新聞』に、幸徳と共訳で日本で最初に『共産党宣言』を訳載し紹介し、マルクスの思想を終生自ら実践した人である。親しい友人であった大杉栄は関東大震災時に虐殺され、幸徳秋水は冤罪大逆事件の主犯にされ絞首刑となった。堺は獄中にあって難を免れ、昭和８年に病没するまで闘い続けた稀有な人物である。

近森泰彦

子供たちへ
語り継ぐべき真実の戦争
ある１兵卒の記録

堰代　晃

５昼夜ぐらい過ぎた時だった。下のエンジン室に居た兵隊が「お～い、大変だ、油がないぞ！」と叫んだ、と同時くらいに船橋の上で見張りをしていた兵隊が「陸地が見えるぞ！」と叫んだ。すると漁師はエンジンの回転を下げてなるべく惰性で島に近づくようにした。だんだん島が近づいてくる、テニアンとは比べようのない更に小さな陸地で山も丘もない本当に小さな島だ。ゆっくりと砂浜に突き刺さるように漁船は島にたどり着いた。船から飛び降りて上陸した、リーダーの兵隊が「銃と銃弾を持って上陸！」と言った。漁船で着いた兵隊十数名が上陸すると、何処からともなく島にいた兵隊達が集まってきていた。しかも、銃口を皆、こちらに向けている。「おいおい、同胞ではないか」とリーダーが言うと「何処から来た」というので「テニアンからきた」というと、とにかく銃を此方に渡せというので皆この島の兵隊達に渡した。付いて来いといわれ、島の中央部にある、木造の建物に皆連れて行かれた。南鳥島守備隊本部と看板が立っていた。　中に入ると、この島の守備隊長が待っていた。そして開口一番「貴様らは、テニアンの脱走兵だな！」と言った。我々のリーダーが「いや、違います！」すると「だまれ！テニアンは玉砕したはずだ！ノコノコと戦場を離脱し貴様らはこの島に脱走してきたのだ！」と守備隊長が決め付けた、まるで軍法会議に掛けられているみたいだった。するとリーダーは「我々は脱走兵では有りません！アメリカに占領され、既にテニアンにおいては対応すべき手立てを失い、残る戦力として、他のマリアナで奮戦する部隊に合流すべく、この南鳥島に転進してまいったのであります。証拠に各将兵は銃を所持し、そしてこのようにこの島の防衛に資するため銃弾も運んでまいりました！」と言った。なかなかうまいことを言うと思った。この転進という言葉は前年にガタルカナルを撤退する際、大本営が使った言葉だ！　これを聞いた守備隊長はしばらく考えていたが「よし、貴様らを転進部隊と認め今日より俺の配下に置く。但し、食料確保については各自とし、本隊よりの配給なき者と心得よ！以上」と言った。やれやれ脱走兵ではないと認めてくれたが、またテニアンと同じ食料探しかと思った。　しかもテニアンと違い兵隊の死骸から糧を拝借することも出来ない。いやな予感がした。一応銃は返してもらったが、合流部隊には天幕もなくテニアンと同じ野宿生活が始まった。魚船の近くに戻り皆放心状態であった。守備隊は中隊であるということで２００名くらいが駐屯しているみたいだった。

まず、皆で島の中を見て周った、何と１里も歩かないうちに、島の反対側に出てしまう三角形の形をした島であることが判った。もちろん流れる川もない、井戸もない。岩場はところどころにあるが丘もなく、本当に平らな島である。テニアンのような鬱蒼としたジャングルもない、間隔を置いて椰子の林があるくらいである。ここで水・食料をどうやって確保するかが大問題であった。初めのころはカタツムリが主食であった、森でカタツムリを見つけるのは比較的簡単だった。守備隊幹部から漁船は目立つので解体するようテニアン部隊に命令が出たので解体しそれを燃料にして、海の水から塩を作った。またカタツムリは飯盒で炊き、塩で食べた。カタツムリ、昆虫、芋虫、蛇、ネズミとにかく島に居る生き物と名の付くものは何でも食べた。誰かが蛇を見たといえば、見つけるまで島中を徹底的に探し回った。島に生える椰子の実はテニアン部隊が来る前から守備隊も取っていたが、まだ残っているものも全部食べつくした。草の根っこから、葉っぱで食えそうなのがあれば何でも口にいれ試した。何か悪いものを食べて苦しむこともあったが、とにかく生きるためには皆必死だった。椰子の繊維で編んだ網を使い魚を取ろうとしたがあまり上手くいかないので、銃弾の火薬で作った爆弾で魚も取って食べた。どのくらいの長きにわたりこの島に着てから経過しただろうか。少なくともセレベスの３ヶ月、テニアンの５ヶ月よりは長く感じ始めた頃、アメリカの戦闘機がこの島を機銃掃射した。とにかく逃げるところのない島である、運の悪い奴が犠牲になった。時には西に向かう、つまりサイパン・テニアンに向かう輸送船団を護送している戦艦からの艦砲射撃を受けることもあった。しかし航行しながらの艦砲射撃であり、全く上陸を意識していない途中での訓練みたいだった。この頃にはもう、島の守備隊にも食料の配給はなく、テニアン部隊と同じように、毎日島中で食料探しをしていた。守備隊にまだ米があるうちにテニアン部隊は島のカタツムリを食べつくしていた。ナメクジも食べつくしていた。兵隊は皆やせこけて行った。島で出会う兵隊は骸骨に目だけが飛び出したような、いつ逝っても不思議ではない連中ばかりだった。体力のない者から、どんどん脱落者が出ていった。マラリア、赤痢、疫病が兵隊を襲った、島のあちこちで行き倒れている者がいる。毎日昼過ぎに降るスコールの水が命をつないだ。しかし、そのような状況が長く続く中、自分も遂に終わりの時を迎えようとしていた。歩くことが出来なくなり、椰子の下で何日か横になっているうちに、意識がもうろうとしてきた、故郷が目に浮かんだ、妻と子供が目に浮かんだ、ここで逝ってしまう悔しさが、何とか支えていた。意識を失いかけていたとき、口に何かを押し込まれた、意識を取り戻した。硬いゴムみたいなものだった。それは、しばらくすると唾液と混じりやわらかくなり、飲み込めるほどになり、かみ締めて飲み込んだ。失いかけていた意識が戻った。水を飲まされた。更に意識がはっきりした。テニ

アン部隊の古参兵が、「干し肉が手に入った、生きて祖国の土を踏もう」と言ってくれた。歩けなくなる前から、うわさは聞いていた。人肉を食べている連中が居るらしいと。遂に自分もその連中と同じ輩に落ち込んだことを、身をもって知った瞬間だった。それからはもう、吹っ切れた！島のあちこちの岩にこびり付いている肉片を剥がし食べた。そのとき、「悔しかったろう！貴様を俺の血となり肉として内地に連れて帰ってやるからな！」といいながら剥がしては食べた。岩に飛び散り、こびり付いている肉片を島の兵隊達が食べつくすと、今度は行き倒れている死体に沸いている蛆虫を食べるようになった。そして遂には死体を解体して食べた。この地獄のような俠気の何ヶ月が過ぎた頃、島にはもう、食べる死体もなくなってしまった。十数人いたテニアン部隊もこの頃には７・８人になっていた。渡辺もリーダーもまだ生きている。ある晩、もう弾は魚を取るため全部使ったので、銃剣で他の部隊を襲い食べようかと真面目に相談した。弱っている奴で部隊から一人取り残されている奴を襲おう。人がひとを襲い殺しそれを食べる、それが当然であるかのごとくの俠気の共食いの世界に完全になっていた。腹をすかし、いつやるか、いつこっちがやられるかと思っている時、その知らせは入った。

足を引きずりながら、守備隊本部跡に生き残った兵隊達は集まった。１００人程度しかいなかった。守備隊長から、戦争が終わったことが告げられた。みんな、ほっとした、悔しいなんて感情はなかった。これで共食いの地獄から開放されると思った。守備隊長から「近日、アメリカ軍により武装解除が行われる、ついては賢くも天皇陛下から頂いた３８式歩兵銃に刻まれている菊の御紋章を付けたまま渡すわけにはいかん、よって鑢で削り落とすよう命令する。以上解散」と言われた。鑢なんて何処にあるんだよと思った。しかたないから兵隊達は近くの岩に銃をこすり付けて菊の御紋章を削ったが、完全には削り取れなかった。相変わらず腹を空かして日々を過ごしていたが、事ここに至り共食いしても仕方ないと誰もが思っているのか、何も事件が起こらないうちに（終戦を知らされていなければ事件ではなく日常になっただたろう）、アメリカの駆逐艦が沖に現れた。兵隊はアメリカ軍が上陸してくる浜に、３８式歩兵銃を集めて積み上げ、その後ろに整列してアメリカ軍の上陸を待った。アメリカ軍が上陸してきた。守備隊長が敬礼をして、身振り手振りで何か話をしている。兵隊はその場に座るよう命令された。次々に小船が海岸に接岸し荷物が降ろされる、しばらくしたら、アメリカの兵隊が何か持ってやってきた。缶詰だ、缶きりで開け次々と配られた。豆の缶詰だ、久しぶりに口にする甘い汁、本当に普通の食べ物の旨さが応えた。アメリカ軍は天幕をはり、その近くで兵隊達は座らされ銃を持ったアメリカ兵の監視のもと有刺鉄線の内側で何日か過ごした。

毎日パンが配られ飯盒の蓋におかずが配られた。初めて食べるものばかりでみな旨かった。それでしばらくすると兵隊達はみな元気を取り戻した。

ある日、沖に輸送船が現れ、アメリカ兵の監視の下で乗船した。船が出港し２段の棚に寝かされながら３昼夜くらいで島に着き上陸した。はじめ何処に連れて行かれるのか判らず、みな不安に思っていた。「このまま南方の島に行き強制労働させられるのかも知れないな」という奴もいた。しかし、上陸したのは日本の八丈島と聞き本土に近づいたと思い安心した。八丈島でアメリカ兵に監視されながら作業を行った。船から降ろされる日本軍の装備を処分するものであった。港から来るトラックに積んであったのは、おびただしい量の日本軍の防毒マスクであった。なぜこんな物があるか分からなかったが、山積みにしてガソリンをかけて燃やした。　**｛私が調べた処によると、アメリカ軍は攻略に苦慮した硫黄島において後半、日本軍の地下要塞に対し毒ガスを使用している。その為か、東京裁判では満州の７３１毒ガス・細菌部隊を裁かなかった、もちろん日本には使用の事実もない｝**　そのほか色々なものを燃やした。アメリカ兵からタバコを貰った。そのタバコの箱はバンソウコウで作られており、怪我をしたり、衣服が破れたりしたときすぐ修復できるようだった。これを見たとき日本軍とアメリカ軍の装備の違いを改めて思い知った。また輸送船に乗りどこかに運ばれることになった。何処に連れて行かれるか、また不安であったが、しばらくすると兵隊達から歓声が上がった。甲板に昇っていくと、遥か遠くに雪を頂いた富士山の頂上が見えている。美しい、それにしてもこんなに富士山が美しいと思ったことはない。皆兵隊達は感激して泣いていた。自分も涙があふれてしょうがなかった。やはり自分も日本人なんだなと思った。富士山の頂上が見えてもなかなか陸地は見えてこない、夜になり朝になってようやく横浜港に着いた。上陸し南鳥島守備隊長が解散を宣言し、それぞれ兵隊は故郷に散っていった。人ごみの中、横浜の関内駅に渡辺と向かった。道すがら「話すか！」と聞くと「ううん！」と帰って来た「俺も！」と応えて、何もなかったこととして二人で故郷の宮古を目指した。横浜も東京も焼け野原だったのには驚いた。それは、みなあのテニアン島の飛行場から飛び立ったＢ２９により爆撃されたからだと後で知った。また広島、長崎に人類史上初めて投下された原子爆弾を搭載したＢ２９が発進したのもあのテニアンだったということを聞き、自分達が守れなかった島、帝国陸軍はなぜ増援部隊を送ってくれなかったのかと複雑な気持ちになった。列車が宮古に近づいた、多分実家にいるだろう妻と子供のことを考えて宮古のひとつ手前の千徳の駅で俺は降り、渡辺と別れた。妻の実家に向かう道すがら、懐かしい田んぼを見て本当に帰って来たんだと実感した。妻の実家に着くと妻のお袋が玄関の土間にいた。「広治さん？」「え！本当にお

目さん広治さん？」と言うから「堰代広治陸軍２等兵ただいま帰りました！」と敬礼すると「こらキヨ、キヨ！」と言って奥の間に走って行った。妻が子供を抱いて出てきた「は～」と言って、言葉もなくお互い抱き合って泣いた、泣いた。大きくなった二人の子供を両脇に抱いて頬ずりをした涙が止まらなかった。聞くとその日、自分の葬式について寺のお坊さんの所に打ち合わせに行ってきたとの事であった。皆、近隣の人も集まってくれて、その日は宴会となり久しぶりに妻の手料理を食べた。翌日家族４人で俺の実家の田老に行き両親に報告したが、あのことは話さなかった。結局、同じ市内に渡辺も生きているし、約束したし６０年間言いそびれてしまった。落ち着いた後日、妻に聞いた「ところで、俺が東京から持ち帰って、しまってあったあの号外は、どごさ有るえ？」帰って来た答えは「あ～あんなもの、このわらすがどーのケツふいでなげだよ！」（あ～あんなもの、この子たちのケツ拭いて捨てたわ）その応えには愕然としたが、怒る気も起こらず、松岡洋右の顔も、この子たちのケツで拭かれたかと思い。ただただ笑ってしまった。

以上が、私の父の戦争体験である。玉砕のバンザイ突撃の日になにがあったか、６０年間なぜ話せなかったか分かると思う。　ショッキングな内容も有ったと思うが、これが現実に身内が体験した戦争の姿そのものである。人肉を食べた話は、私が高校生になり大岡昇平の小説「野火」の中にフィリピン戦線で戦った兵士の中で起こったこととして描かれていることを知り、親父に聞いてみた。子供の頃から南鳥島で食料に苦労し飢え死に寸前だったと言うことを何度も聞かされていたからである。すると親父はすんなりと認め、その壮絶な惨劇を語った。　この戦争体験談を通し子供たちに知って欲しいのは、もし下田で大きな輸送船に乗っていたら、もしテニアンで士官学校出の若い将校の下に配属されていたら、もしバンザイ突撃で後ろの将校の頭が吹き飛ぶのが１秒遅れていたら、もし穴に祖母の幼馴染が倒れこんでこなかったら、もしテニアンで漁船の存在に気づかなかったら、もし出発の日に手ぶらで漁船に行ったら、もしマリアナは俺の庭だという漁師がいなかったら、もし意識が遠のく中で口に肉片を押し込んでくれる者がいなかったら、もし終戦が１ヶ月遅れて島が共食いの島になっていたらどうなっていたかである。この、もしもの連続の中でかろうじて奇跡的に助かった命のおかげで、今現在、私（堰代晃）もいるし、真穂も香織も隼也も墨加も存在するということを肝に銘じてこれからを生きて欲しいと思う。ただなんとなく戦争に反対だ！ではなく、自分の命に直接かかわっていた祖父の壮絶なる体験があるから、決して二度と繰り返したくはない理由が私の命の存在そのものにあると感じて欲しい。

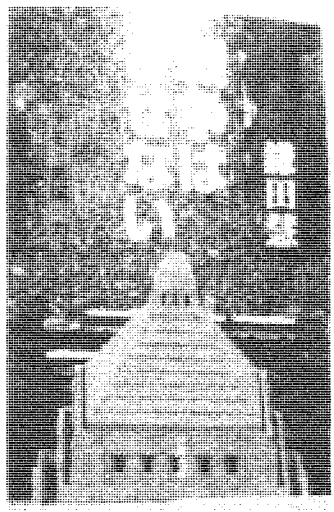
以上、父から娘たちへ

本の紹介

鎌田慧『戦争はさせない・デモと言論の力』（岩波書店）

安保法制、辺野古米軍基地、原発の再稼働の三大事態に立ち向かってきた筆者の思いが伝わる本である。

「新聞が死んだ日」と言われるようになったのが１９６０年６月１７日、朝日、毎日、読売、東京、産経、日経、東京タイムズの七社が相計らって出した七社共同宣言、これは６月１５日、南通用門から国会構内に突入した学生たちの行動を「暴力を排して議会主義をまもれ」とそれぞれの一面に大きく掲載された日である。言論を尽くさず、多数を恃み、暴力的に議会運営をした与党を批判せず、野党に対して争点を投げ捨て国会正常化に協力せよと主要マスコミは口をそろえた。



本年８月３０日の大デモの参加数の警察発表に、唯々諾々と従ったマスコミの姿勢が６０年安保に重なる。マスコミを見る目は厳しい。

私が最高責任者という自尊心、世の中は敵と味方で自分を批判するのは敵だと断じる安倍総理はチャップリン「モダンタイムス」がお似合いだ。

さよなら原発運動をひながたにしてこれまでの労働運動主導型ではなく、党派を超えた市民の呼びかけが中心になり「労働運動」がそれを支える形にかえ、シールズがこれに加わり新しい市民の運動が悪政に立ち向かう主体になったことを大きく評価している。ほかの運動を批判しない鎌田さんがとらえた大きな可能性を秘めた共同と映る。

「最大の任務はもはや安倍政権は維持させない、私たちの力で何とかしてつぶす、戦争をさせない。これを私の最後の仕事としていきたい」私も鎌田さんと同世代、この言葉に連なっていきたい。

本の後半に終生のお付き合いをされることになった沖縄の方々や瀬戸内寂聴さんらとの出会いを感動的に述べられていて清々しい。　　近森泰彦

【当面の日程】

1月：◆１９日（火）１０時～　デンソー　高比良裁判≪名古屋地裁≫
◆１９日（火）１１時２０分～　名古屋市バス公務災害裁判≪名古屋高裁≫
◆１９日（火）１８時３０分～　安倍内閣の暴走を止めよう集会，デモ≪エンゼル広場≫
◆２０日（水）１５時～　第一交通裁判≪名古屋地裁≫
◆２５日（月）１４時～　第一交通裁判≪名古屋地裁≫
◆３０日（土）１３時３０分～　東海コミニティユニオン交流会≪国労会館≫

編集後記　今回、５ページ分で紹介したのは、父親の戦争体験を堰代さんが子供に残したものの一部です。柿山さんの「フィリピン人船員と戦争」は近い将来を考えさせます。今回で編集長は交替ですが、異論が我等のエネルギーです。原稿を寄せて下さい。「小さなメディアが事を動かす」ことを希望します。

木村直樹

■□ **事務局連絡先** □■
〒456－0006
名古屋市熱田区沢下町９－３
労働会館本館３０６号　健康センター内
Tel&(fax)：052-883-6966(6983)
メール：sfl7wtkq@tg.commufa.jp
ユニオンと連帯する市民の会

お願い！　感想、情報、意見をお寄せ下さい。

1部 100円

本年度の会費・カンパの振込をお願します

振込先

郵便振込
口座番号：00870-7-169123